

# 目標言語話者との直接接触が中国語学習者に 及ぼす影響

— 学習における動機付けを中心に —

曲 明

**Influence of Direct Contact with Target Language Speaker on  
Learners of Chinese: Focusing on Motivation in learning Chinese**

QU Ming

## 1. はじめに

今日本の大学では国際交流の一環として、中国への各種長、短期留学プログラムを企画・実施されている、また日本国内においても中国人と直接コミュニケーションをとることが簡単にできるようになっている。本研究では日本で中国語を学ぶ (Foreign Language Learning, 以下 FLL と略す<sup>1</sup>) 学習者にとって、中国、中国人との直接接触は彼らにとってどのような意味を持つのか、具体的に言えば彼らの中国語学習の動機づけにどのような影響を及ぼすかを明らかにしようとする。外国語学習の成功には、IQ や学習適性もかなり寄与するが、しかしそれだけでは説明できないものもある。今までの研究 (たとえば Gardner & Lambert (1972), Dörnyei (1990) など) では、学習意欲、学習動機といった「情意的変数」も少なからず関与しているのではないかと考えている。本研究は中国語学習における動機づけを中心に目標言語話者との直接接触の影響を考察していきたい。

---

<sup>1</sup> FLL 文脈と対照的に、目標言語国で第二言語として目標言語を学習する場合は Second Language Acquisition と称し、今後 SLA と略す。

## 2. 先行研究と研究目的

### 2.1 統合的動機づけと道具的動機づけの分類

外国語学習における動機づけに関する研究は Gardner & Lambert を中心に行われてきた。彼らの研究の出発点は、同じ授業を受けていながら、どうして外国語学習の成功者と失敗者が出るのかという疑問を解明することであった。彼らは動機づけを、いくつもの異なった態度からなる構成概念であると定義し、そのうちもっとも重要なのは集団固有のものであり、学習している言語の文化集団の成員に対して学習者が持つ態度であるとした。また、態度は大きく2つの群に分けられ、そこから2つの動機づけ、すなわち道具的動機づけと統合的動機づけが導かれた。

道具的動機づけとは、例えば、将来の職業に役立つから、専門の資料を読むためなど、言語習得の目的が実利的な価値を反映している場合の動機づけである。一方統合的動機づけとは、目標言語集団に参加するために、その集団で話されている言語を獲得する動機づけ、例えば、目標言語話者の文化、生活に興味があるなどのものである。

この分類に基づいて、動機づけと学習効果に関するさまざまな調査が行われた。中国語教育分野では、An (2003, 2004) は日本人大学生の中国語学習動機の構成要素を調べた結果、上述の統合的動機づけと道具的動機づけ以外、ネガティブな動機づけも存在すると示した。更に任 (2009) では、日本人大学生の中国語学習に対する動機づけの構成要素は An (2003, 2004) で示した動機づけ以外、語学習得動機づけ、他者からの影響の動機づけ、多言語との比較動機づけがあるとし、特に語学習得動機づけ、他者からの影響の動機づけ、多言語との比較動機づけは日本人大学生の中国語学習に対する独特の動機づけであると主張した。

### 2.2 動機づけの本当に重要な部分

外国語学習と動機づけに関する研究のさまざまな結果から、Clement & Kruidenier (1983) は、統合的動機づけと道具的動機づけが必ずしも相容れないものではない、外国語学習者がもっぱら道具的、または統合的動機づけのいずれか一方だけを持っているということはまれで、たいてい場合は両動機づけを組みあわせて持っていると述べた。また、Schumann (1986) は、どの種類の動機づけも、文化変容の概念に寄与する多くの社会的・心理学的な要素の一つであるとし、こうした動機づけ要素を含む文化変容の重要な側面は、それが学習者を目標言語話者との接触へ駆り立てることであり、そして目標言語話者との口頭の相互作用は言語習得における成功の直接の原因になると述べている。

このように、本研究は単純に動機づけの構成要素の分類を調べるのではなく、動機づけの「本当に重要な部分」—「コミュニケーションへの動機づけ」といったものに焦点をあて、目標言語話者との口頭の相互作用が学習者の学習の動機づけにどのような影響を及ぼすのかを実証的に分析したいと考える。

### 2.3 本研究の目的

本研究は中国語分野の先行研究の結果を踏まえながら、縫部他（1991）に基づき、中国語学習の動機づけとして20項目からなる質問紙を作成した。これらの動機づけについて、2つの研究目的を立てて分析を進める。

目的①：日本人大学生の中国語学習動機の各項目はどのように関連づけているのか

本論文は動機づけの各項目間はゆるく関連づけられており、互いに相容れないものではなく、学習者はそれらを組み合わせて持っているという立場に立っている。従って、動機づけの項目間が相互に関係することを明らかにしていきたいと考える。

目的②：目標言語話者との直接接触が学習者の動機づけにどのような影響を及ぼすのか

ここでは、目標言語話者との「直接接触」とは中国語学習者と中国語母語話者との間に言語あるいは言語以外の手段を用いてのコミュニケーション活動を指している。FLL コンテキストに欠けているこの目標言語話者とのコミュニケーションを経験することによって、学習者の動機づけはどのような影響を受けるのか、影響を受けた場合の学習者の動機づけの変化とはどのような関係にあるのかについて究明したい。

## 3. 研究方法

### 3.1 質問紙調査の実施方法及び調査内容

2008年6月、東京都内W大学政経学部で第二外国語として中国語を学ぶ学生92名を対象に調査用質問紙を配付し、無記名で答えてもらった。調査対象者のうち、男子学生は42名、女子学生は50名であった。調査実施時点で彼らの中国語学習歴は大よそ16ヶ月間であった。

調査用質問紙<sup>2</sup>には選択してもらおう問題とオープンクエスチョンと2部分があり、選択問題の各項目に対し5段階評価を求めた。オープンクエスチョンでは中国に滞在する経験、滞在期間、中国人と接する経験、接する内容及び感想を聞き、更に学習者たちの背景情報として、中国語学習期間、性別も尋ねた。尚、分析と考察をしやすいするため、全20項目の動機づけ変数をDörnyei（1990）に基づき、言語使用領域と態度領域と2領域、10カテゴリー（A～J）に分類した。

A	職業的言語使用領域	⑬中国の企業で働きたい ⑳中国との貿易 / ビジネスに携わりたい
B	学術的言語使用領域	④中国語の論文を読みたい ⑤中国語で論文を書きたい

<sup>2</sup> 参考資料1を参照してください

C	受動的言語使用領域	⑥中国語の雑誌、新聞や文学作品を読みたい ⑦中国語の映画、テレビ / ラジオ番組を見たい、聞きたい
D	積極的言語使用領域	⑭中国を旅行したい ⑯中国人の友達と付き合いたい ⑰中国人と仲良くしたい
E	道具志向 (態度領域)	⑲将来の職業に役に立つ
F	中国文化への興味 (態度領域)	⑧中国の文学に興味がある ⑨中国の伝統文化に興味がある
G	中国語への興味 (態度領域)	①中国語の勉強が楽しい ②中国語が好き ③中国語の授業が楽しい
H	外国文化への興味 (態度領域)	⑩他国の文化を知りたい ⑱他の言語を学びたかった
I	教養志向 (態度領域)	⑮自分の教養を高めたい
J	中国への興味 (態度領域)	⑪将来中国で勉強、仕事したい ⑫将来中国に住みたい

### 3. 2 分析方法

研究目的①を明らかにするために、言語使用領域と態度領域の変数間の相関係数を求め、学習者個々人のどのような態度がどのような具体的な言語使用と関連するのかを動機づけの道具性と統合性の両側面から分析する。

研究目的②を明らかにするために、まず中国人との直接接触経験の有無によって平均値に有意差のある動機づけ項目を算出し、これらの項目と言語使用領域および態度領域との相関分析を行うことによって、目標言語話者との直接コミュニケーションの経験が学習者の学習動機に及ぼす影響を明らかにする。

## 4. 研究結果

### 4. 1 全体の平均値について

各動機づけ項目の平均値と標準偏差を表1に示した。上位3項目 (⑱、⑩、⑮) がともに中国語学習と直接結びつく動機づけとは言えず、外国語の学習を始めてから16ヶ月を経った調査時点では、学習者は中国語学習に対する漠然とした興味を持っている状態であり、外

国語を「当然勉強すべき科目の1つとして、知識、教養、階級などの象徴」(ネウストプニー, 1983) として捉えていることが言えるであろう。

表1 各項目の平均値と標準偏差

動機づけ項目	平均	標準偏差
1. 中国語の勉強が楽しいから。	3.22	1.18
2. 中国語が好きだから。	3.66	1.20
3. 中国語の授業が楽しいだから。	2.64	1.14
4. 中国語の論文を読みたいから	2.39	1.31
5. 中国語で論文を書きたいから。	2.25	1.29
6. 雑誌、新聞や文学作品を読みたいから。	3.78	1.12
7. 映画、テレビ/ラジオ番組を見たいから。	4.06	1.01
8. 中国語の文学に興味があるから。	3.20	1.39
9. 中国の伝統文化に興味があるから。	3.37	1.15
10. 他の文化を知りたいから。	4.50	1.17
11. 将来中国で勉強したいから。	3.07	1.26
12. 将来中国に住みたいから。	2.94	1.21
13. 中国の企業で働きたいから。	2.38	1.34
14. 中国を旅行したいから。	4.07	1.25
15. 自分の教養を高めたいから。	4.16	1.11
16. 中国人の友達と付き合いたいから。	4.02	1.12
17. 中国人と仲良くしたいから。	3.99	1.07
18. 他の言語を学びたかったから。	4.70	0.82
19. 将来の職業に役に立つから。	3.48	1.27
20. 中国との貿易/ビジネスに携わりたいから。	3.19	1.44

#### 4.2 動機づけの構成要素について

表2は「態度領域」と「言語使用領域」の間の相関係数を示したものである。

「道具志向(態度領域)」の⑱が「職業的言語使用領域」⑬、⑳とかなり相関があるのは、これらがすべて道具的動機づけであることから予測できたことだが、同時に「積極的言語使用領域」⑭、⑯とも低い相関がある。この「積極的言語使用領域」⑭、⑯は伝統的には統合的動機づけと見なされているため、その「道具志向(態度領域)」との相関は、学習者が道具的動機づけと統合的動機づけと両方持ち合わせているということを示していると言える。またこれらの道具的動機づけの結びつきは道具的動機づけの集合体の基礎を成しているとは仮定する。

「中国語への興味(態度領域)」の①、②、③の3項目は平均値が高く、このカテゴリーに高い評価を出した学生は中国語学習のプロセス自体を楽しんでいると言え、その態度がすべ

での「言語使用領域」との相関を生み出している。「中国文化への興味」⑧、⑨とともに、特に「受動的言語使用領域」の⑥、⑦とかなりの相関があり、目標言語及びその社会・文化的所産への興味を示しているということが言える。本研究では「社会・文化的志向」と名付ける。

「中国への興味（態度領域）」の⑪、⑫は「職業的言語使用領域」の⑬、⑳と「積極的言語使用領域」の⑭、⑯とかなりの相関があることから、学習者が⑪、⑫を態度領域とも言語使用領域ともとらえているということが言える。また非正式インタビューで調査対象者に聞いたところ、多くの日本人大学生にとっての「将来中国で生活したい」というのは、目標言語社会の一員になりたいという願望ではなく、一定期間での生活をしたいと考えているようで、本研究では「新しい生活体験を求める志向」と名付ける。

「外国文化への興味（態度領域）」の⑩、⑱と「教養志向（態度領域）」の⑮とは、中国語と関連づけられた動機づけではないので、いずれの言語使用領域とも高い相関をもつことは期待されなかった。しかしながら、「外国文化への興味（態度領域）」の⑩、⑱と「積極的言語使用領域」の⑭、⑯、⑰との間にはそれぞれ低い相関が見られ、これらは「知識探求志向」と名付けられる。

表2 言語使用領域と態度領域の相関係数

		言語使用領域									
		職業的言語 使用領域 ⑬ ⑳		学術的言語 使用領域 ④ ⑤		受動的言語 使用領域 ⑥ ⑦		積極的言語 使用領域 ⑭ ⑯ ⑰			
態 度 領 域	⑧中国の文学に興味がある	.04	.22	.22	.43	.56	.46	.42	.43	.30	
	⑨中国の伝統文化に興味がある	.41	.00	.14	.18	.52	.48	.41	.38	.47	
	①中国語が好き	.37	.33	.43	.46	.53	.46	.42	.36	.32	
	②中国語の勉強が楽しい	.35	.32	.31	.45	.50	.39	.24	.27	.24	
	③中国語の授業が楽しい	.41	.27	.22	.24	.34	.26	.26	.42	.38	
	⑩他国の文化を知りたい	.06	.01	.02	.08	.38	.27	.35	.37	.26	
	⑱他の言語を学びたかった	.34	.37	.01	.00	.14	.06	.28	.42	.38	
	⑮自分の教養を高めたい	.03	.16	.06	.03	.12	.17	.21	.21	.26	
	⑪将来中国で勉強、仕事したい	.48	.51	.22	.17	.35	.33	.48	.49	.43	
	⑫将来中国に住みたい	.44	.47	.21	.15	.39	.41	.52	.43	.38	
⑲将来の職業に役に立つ	.62	.60	.02	.08	.05	.08	.32	.33	.20		

### 4.3 目標言語話者との直接接触が学習者の動機づけに及ぼす影響について

目標言語話者との直接接触の有無によって平均値に有意差のある動機づけ項目は⑪、⑭、⑯、⑱、⑳であった。その値を示したのが表3である。平均値に有意差のある動機づけ項目はいずれも目標言語話者との直接接触経験のある学生の方の平均値が高く、その中でも特に⑭「中国を旅行したい」、と⑯「中国人の友達と付き合いたい」の平均値が高い（⑭はM = 4.33、⑯はM = 4.24）。これらは、中国人と直接コミュニケーションを経験したことが、「積極的言語使用領域」の動機づけを高くしたということを表していると言える。

表3 中国人との直接接触経験の有無による平均値の差がある項目

	有 (N=52)		無 (N=40)		t (df=90)
	M	SD	M	SD	
⑪将来中国で勉強、仕事したい	3.47	(1.15)	2.47	(1.32)	3.32*
⑭中国を旅行したい	4.33	(0.90)	3.70	(1.41)	2.64*
⑯中国人の友達と付き合いたい	4.24	(0.94)	3.67	(1.23)	2.26*
⑱将来の職業に役に立つ	3.96	(1.07)	3.05	(1.29)	3.45***
⑳中国との貿易・ビジネスに携わりたい	3.56	(1.25)	2.86	(1.48)	2.2*

(\*P<.05 ; \*\*P<.01 ; \*\*\* P<.001)

表4は、中国人との直接接触経験の有無によって平均値に有意差のある動機づけ項目と態度領域の動機づけ項目との相関係数を示したものであり、表5は、平均値に有意差のある動機づけ項目と言語使用領域の動機づけ項目との相関係数を示したものである。中国人と直接接触経験のない学生が中国人と直接接触経験のある学生より高い相関を示しているものは「中国との貿易・ビジネスに携わりたい」⑳と「中国で生活したい」⑫、「中国との貿易・ビジネスに携わりたい」⑳と「自分の教養を高めたい」⑮、「積極的言語使用領域」の⑭、⑯と「一般的外国語・文化への興味」⑩、「中国で勉強したい」⑪と「中国との貿易・ビジネスに携わりたい」⑳であった。

中国人と直接接触経験のある学生が中国人と直接接触経験のない学生より高い相関を示しているものは「積極的言語使用領域」の⑭、⑯と「中国語・文化への興味」の⑨、「積極的言語使用領域」の⑭、⑯と「中国語・学習への興味」の②、「中国で生活することへの興味」⑪と「受動的言語使用領域」の⑥、⑦であった。

表4、表5から、中国人と直接接触経験がない学生は「中国との貿易、ビジネスに携わりたい」、あるいは「一般的外国語の興味」といった漠然的、間接的な理由から中国語を学習するが、それと対照的に、中国人と直接接触経験がある学生は「中国、中国人、中国語に興味がある」といったはっきりした理由から中国語を学習することが明らかとなった。言い方を変えれば、中国人と接したことは、学習者に中国、中国人、中国語に対する興味を持た

せ、中国語を勉強して更に中国人とコミュニケーションしたいという動機づけも高めることができたと言えよう。

表 4 中国人との直接接触経験の有無によって平均値に有意差のある言語使用領域の動機づけと全態度領域との相関係数

		平均値に有意差のある言語使用領域の動機づけ項目					
		職業的言語使用領域		積極的言語使用領域			
		⑳		⑭		⑯	
		有 (52)	無 (40)	有 (52)	無 (40)	有 (52)	無 (40)
態度領域	⑲将来の職業に役に立つから	.66**	.56**	.03	.36**	.13	.32*
	⑩他の文化を知りたいから	-.15	.17	.27	.52***	.44	.42**
	⑱他の言語を学びたかったから	.18	.22	-.04	.20	.34*	.32*
	⑧中国文学に興味がある	-.11	.15	.21	.17	.26	.04
	⑨中国の伝統文化に興味ある	.07	-.01	.62**	.36*	.53***	.23
	①中国語の勉強が楽しいから	.25	.23	.16	.16	.25	.23
	②中国語が好きだから	.29*	.19	.64*	.37	.54*	.23
	③中国語の授業が楽しいだから	.25	.13	.35	.30	.33*	.35**
	⑪将来中国で勉強したいから	.11	.36*	.54	.58**	.47*	.35*
	⑫将来中国に住みたいから	.35*	.54**	.69***	.38**	.42**	.24
	⑮自分の教養を高めたい	-.01	.33*	-.03	.17	.08	.22

注：有：中国人と直接接触経験あり

(\*P<.05; \*\*P<.01; \*\*\* P<.001)

無：中国人と直接接触経験なし

表 5 中国人との直接接触経験の有無によって平均値に有意差のある態度領域の動機づけ項目と全言語使用領域との相関係数

		言語使用領域								
		職業的		学術的		受動的		積極的		
		⑬	⑳	④	⑤	⑥	⑦	⑭	⑯	⑰
態度領域	⑲将来の職業に役立つ									
	有 (52)	.22	.54*	.02	.15	.09	.21	.12	.14	.14
	無 (40)	.35	.55*	.02	.00	-.07	-.02	.35**	.30**	.17
	⑪将来中国で勉強したい									
有 (52)	.23	.10	.29	.25	.49*	.44**	.42**	.35*	.25	
無 (40)	.32*	.36*	.14	.15	.25	.21	.49**	.33	.36	

注：有：中国人と直接接触経験あり

(\*P<.05; \*\*P<.01; \*\*\* P<.001)

無：中国人と直接接触経験なし



#### 4.4 オープンクエスションの結果と分析

##### 4.4.1 「中国語学習動機に影響があった」の答えについて

中国人との直接接触経験がある人 52 人のうち、オープンクエスションに答えてくれた人が 23 人であった。その内、「中国語学習動機に影響があった」と答えた人が 18 人いた。接触期間は、訪中経験がある 6 人のうち、5 人は一週間以上の滞在であり、1 人は 4 日間であった。アルバイト先での接触経験、又は大学の友達との接触経験など日本国内での接触は何日から一年以上と期間が様々であった。

「具体的どのように感じたか」についての回答では、下記のようなことが書かれていた。

- ・「中国語でお買い物ができる時、すごく嬉しかった。自信が付いた。」
- ・「中国語が通じて、嬉しい、もっと勉強しようと思った。」
- ・「華僑の方の結婚式で、スタッフとして働いた時、日本語が通じなくて、試しに中国語で話しかけて見たら、通じたので、役に立つことが出来て嬉しかったです。もっとがんばって勉強したいと思います。」
- ・「中国人の方に中国語を教えていただいているので、その文化や現実的な物事に触れることが出来、大変動機づけられていると思います。」
- ・「中国が大きいなあと感じて、中国を旅行したいと思った。」
- ・「中国の話一杯聞いたので、中国の文化、社会への興味を持つようになりました。」
- ・「もっと中国人の友達を作り、中国語を使いたいと思った。」
- ・「始めて中国人の中国語を聞いた時、全然聞き取れなかった、それがなんか悔しくて、CD を繰り返し聞いたり、声を出して読んだりした。それからすこしずつ中国語を聞き取れるようになって、興味も湧いてきた。」
- ・「中国の人は物事をはっきり言うと感じました。自分の国に誇りを持っている人が多く、それは大変すばらしいことだと思います。」
- ・「バイトの仲間（中国人）と良く話します。いろんな面で文化の違いを感じることもあり、自分にとって大変な勉強になったと思います。」
- ・「いろんな人や言葉があるんだなあと思い、もっと勉強したら面白そうだなあと思いました。」

##### 4.4.2 「動機づけに影響があったかどうか分からない」、「なかった」の回答について

オープンクエスションに答えてくれた 23 人のうち、「中国語学習動機に影響があったかどうか分からない」、「何とも言えない」、「なかった」と答えた人は 5 人いた。その中、訪中経験者は 1 人、日本でコミュニケーションを経験した人は 4 人であった。接触期間について、訪中経験者は 3 日間、他の 4 人は「挨拶程度」、「毎日会うが、あまりしゃべらない」とあまり接していないことが示された。「具体的どのように感じましたか」についての回答では、「考え方がちょっと違うと感じた」、「あまり接していない」、「特に何も感じていない」などの回答があった。

## 5. 考察

### 5.1 日本人大学生の動機づけ構成要素について

本研究は動機づけの20項目のうち、「態度領域」の項目と「言語使用領域」の項目の間の相関分析を行い、その結果、両領域の項目は相互に関連していて、学習者は両領域の動機づけを組み合わせて持っていることが示された。また、「態度領域」と「言語使用領域」との様々な相関から、(ア)社会・文化的志向、(イ)新しい生活体験を求める志向、(ウ)知識探求志向と三つ動機づけの集合体が得られた。これらは統合的動機づけを基本としたひとつの集合体を成していると思なされる。道具的動機づけを基本とした結びつきは(エ)道具的動機づけの集合体を構成し、これはDörnyei (1990)において見られる「新しい社会へ統合する願望」を持たないという点で、大変道具性の強いものとなっている。また、(ア)~(ウ)を成す動機づけはお互いに(エ)とゆるく関連をもっている。

本研究のこの結果は動機づけの構成要素の分類は必ずしも相容れないものではない、多くの外国語学習者は様々な動機づけを組み合わせて持っていることを中国語教育分野でも実証的に証明できたことが言える。外国語学習全般に共通する動機づけの役割を明らかにするためには、動機づけの構成要素の分類よりも、動機づけの本当に重要な部分—「コミュニケーションへの動機づけ」といったものに焦点を当てるべきではないかと思われる。

### 5.2 目標言語話者との直接接触が学習者の学習動機に及ぼす影響について

本研究の研究目的②の結果から、実際の目標言語話者とのコミュニケーションを経験することが「積極的言語使用」の動機づけを高めるとともに、FLLコンテキストにおける学習者の漠然とした外国語学習の興味を、目標言語に関連する何らかの興味へと導いてくれたことが明らかとなった。奇妙な言い方かもしれないが、「目標言語話者とのコミュニケーション経験」が「目標言語話者とのコミュニケーション」へと学習者を動機づけているということが示された。

リヴァーズ (1982) が外国語学習過程におけるコミュニケーション活動の重要性を次のように説明している。「言語習得の過程において、生徒は言語の連鎖の表出を学びますが、それは実際に使うことによって学ぶのです。しかし、この活動をどれだけ実生活場面に関連づけ用とも、この練習は擬似伝達の域を越えることはほとんどありません。なぜなら、それは自発的なものではなく、外的な要因に左右されており、独立した活動ではないからです。これまでの私たち教師側の失敗は、擬似伝達を上手にやった生徒に満足していたことにあります。外国語で相互するように命じでもだめです。伝達の動機を呼び起こさなければいけません。」更に、彼はこの「伝達の動機」は、学習者の本質的な興味によっては育まれることが必要で、そのような興味によって、学習者が習得した「知識」を自分自身の目的で用いるときに始めて、自律的な相互作用へとつながるとしている。

本研究においても、中国語母語話者とのコミュニケーションの経験が「積極的言語使用」の動機づけ、とりわけ⑩「中国人の友達と付き合いたい」を高めているということの要因も結局、「中国人の友達」=コミュニケーションを行う「相手」の発見にあると言えるのではないだろうか。FLL コンテキストの学習者にとって、このコミュニケーションする「相手」(目標言語話者)の存在が、たとえて言えば、ただ無闇に投げているボールを、どの方向へ投げればいいのか、誰が受け取るのかがわかることである。そのことによって、今度はどうすれば相手の胸元にうまくボールを投げられるか、自分は何処にいればボールを受け取ることが出来るかというような考えが生まれ、キャッチボールの成立につながっていくことになる。言いかえると、つまり FLL コンテキストの学習者が実際に目標言語話者とのコミュニケーションを経験することは、自分が今学んでいる言語を用いて、伝いたい事柄、それを伝える相手とがはっきりとした形をもつことになり、また、この「伝いたい事柄、それを伝える相手」を持っているということ自体がコミュニケーションへ動機づけられていくと思われる。

今回の調査の対象者であり、中国語の学習者が目標言語話者との直接接触することによって感じたことを見ればわかるように、中国語学習者が目標言語話者とのコミュニケーションを通して、外国語を通じた時、「楽しく」(嬉しく)感じると同時に、「有能感」を高めて、そして更に「勉強したい」(もっとコミュニケーションしたい)という内発的動機づけのプロセスを示していることがわかる。この内発的動機づけこそが外国語学習に成功させる最大な要因ではないだろうか。

一方、オープンクエスチョンに答えてくれた 23 人の内、目標言語話者と接触しても、「中国語学習の動機づけに影響があったかどうかわからない」または「影響はなかった」と感じる人もいた。その原因について、「動機づけに影響があった」群のデータと比較しながら、論じて行きたい。まず、接触期間について、「動機づけに影響があった」群は「動機づけに影響がなかった」、「あったかどうかわからない」群より、平均的な接触期間が長いことがわかった。また、本研究の数の少ないデータに限って言えば、「動機づけに影響がなかった」群の接触内容(「レストランで一回だけ」「あんまり接していない」「挨拶ぐらい」)より、「動機づけに影響があった」群の接触内容が量的にも、質的にも、もっと度合いの違うものであった可能性があると思われる。今回の調査は被調査者の人数が少なく、これについての確かな分析ができないが、今後更なる研究が望まれる。更に「動機づけに影響があった」群は「動機づけに影響がなかった」群より、多くの学習者が目標言語話者への態度がポジティブなものであると対照的に「影響がなかった」群では、目標言語話者への態度がややマイナス的なものであった。(例えば:「考え方がちょっと違うと感じた」、「中国人は自分に自信がありすぎる」など)

上記のことをまとめると、外国語学習者の動機づけに影響を及ぼす目標言語話者との接触はどんなものでも、相手は誰でも良い訳ではなく、ある程度の接触の量と質が必要であることが分かった。また、外国語、外国人に対するポジティブな態度を持っていれば持っている

ほど、コミュニケーション活動を通じて、良い刺激が得られやすいと思われる。

## 6. まとめと今後の課題

本研究は日本人大学生の中国語学習動機づけの構成要素間の関係を分析し、更に目標言語話者との直接接触が学習者の動機づけに及ぼす影響を考察した。その結果、外国語学習者の動機づけの種類は、必ずしも絶対的なものではなく、本質的なことは、学習者にコミュニケーション活動を体験させ、「外国語がわかった、出来た、通じた」という成功体験を与え、その結果、外国語学習は面白い、もっと学習しようという気持ちを起こさせることだと明らかになった。

本研究では、中国語学習において、「コミュニケーションへの動機づけ」と「目標言語話者との直接接触」の間に有意な相関関係があったが、しかし、相関関係と因果関係とは区別して考えなければいけないため、これから、動機づけと学習成果との因果関係について発展的な研究が望まれる。尚、学習者の動機づけは時とともに変化するものであり、今後時間差による縦断的な研究も必要であろう。

### 参考文献

- An Ning (2003) A motivation model for Japanese university students' learning of Chinese. Kyoto University research studies in education 49
- An Ning (2004) Motivation, goal orientation, learning activities, pedagogical preferences, and performance in learning Chinese. Kyoto University research studies in education 50
- Clement, R. and Kruidenier, B. (1983) Orientations in second language acquisition: I . the effects of ethnicity, milieu, and target language on their emergence. Language Learning 33
- Gardner, R. C. and Lambert, W. E. (1972) Motivation Variables in Second Language Acquisition. Canadian Journal of Psychology 13
- Macnamara, J. (1973) The Cognitive Strategies of Language Learning. Newbury House
- Ren, Li (2007) A study on teaching Chinese to Japanese learners. Journal of Ibaraki Christian University 41
- Schumann, J. H. (1986) Research on the acculturation model for second Language acquisition. Journal of Multilingual and Multicultural Development 7
- Z. Dörnyei (1990) Conceptualizing Motivation in Foreign Language Learning. Language Learning 40
- 倉地暁美 (1992) 『対話からの異文化理解』 勁草書房
- J. V. ネウストプニー (1982) 『外国人とのコミュニケーション』 岩波新書
- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1992) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査 — ニュージーランドの場合 — 」 『日本語教育』 86号

## 参考資料 1

## 調査協力へのお願い

このアンケートは、中国語学習に関する研究の一環として行うものです。ここで皆さんが書いて下さったことは本研究の目的以外一切使用しません。ご協力をお願いします。最初に質問事項を読み、あなたの考えを1～5段階に分けた同意度の数字を回答欄に記入してください。

1. そうです 2. たぶんそうです 3. どちらとも言えない 4. たぶん違う 5. 違う

A：私は中国語を学んでいる、なぜなら、

- ① 中国語の勉強が楽しいから。
- ② 中国語が好きだから。
- ③ 中国語の授業が楽しいだから。
- ④ 中国語の論文を読みたいから
- ⑤ 中国語で論文を書きたいから。
- ⑥ 中国語の雑誌、新聞や文学作品を読みたいから。
- ⑦ 中国語の映画、テレビ/ラジオ番組を見たい、聞きたいから。
- ⑧ 中国の文学に興味があるから。
- ⑨ 中国の伝統文化に興味があるから。
- ⑩ 他国の文化を知りたいから。
- ⑪ 将来中国で勉強、仕事したいから。
- ⑫ 将来中国に住みたいから。
- ⑬ 中国の企業で働きたいから。
- ⑭ 中国を旅行したいから。
- ⑮ 自分の教養を高めたいから。
- ⑯ 中国人の友達と付き合いたいから。
- ⑰ 中国人と仲良くしたいから。
- ⑱ 他の言語を学びたかったから。
- ⑲ 将来の職業に役に立つから。
- ⑳ 中国との貿易/ビジネスに携わりたいから。

B1：中国へ行ったことがありますか？

1. ある 2. ない

B2：「ある」と答えた方にお聞きします。滞在期間はどのぐらいでしたか？

C1：中国人と接したことがありますか？

1. ある 2. ない

C2：中国人と接した経験は中国語勉強の動機づけに影響がありましたか？

具体的にどのように感じましたか？

D：あなたはどれぐらい中国語を勉強していますか？

( )年( )ヶ月

E：あなたの性別を教えてください 1. 男性 2. 女性

(きよく めい 本学非常勤講師)